

平成29年度 まちづくり懇談会

玉川地区会場の要旨

平成29年10月17日（火） 19:00～20:30

玉川地区コミュニティセンター 参加者 116名

企画部長：お仕事の後でお疲れのところ、まちづくり懇談会にご出席いただきまして誠にありがとうございます。わたくしは本日の進行を務めさせていただきます、企画部長の柿澤と申します。どうぞよろしく願いいたします。それでは定刻となりましたので、玉川地区まちづくり懇談会を開始させていただきます。開会にあたりまして市長よりご挨拶を申し上げます。

市長：改めまして皆さんこんばんは。こここのところ冷たい雨とともに一気に冷え込んでまいりました。今年はずでにインフルエンザが流行しているということと、ワクチンが足りないということでございますので、皆さんうがい・手洗いと衛生管理・体調管理には十分ご注意くださいと思います。本日はお寒い中、またお疲れのところ玉川地区のまちづくり懇談会に大勢ご出席いただきましてありがとうございます。また日頃より市のまちづくり、ひとづくりにお力添えをいただいております。改めて感謝を申し上げます。昨年のまち懇では「大いに語ろう、茅野市の未来予想図」ということで、これから10年間茅野市をどんなまちづくりにしていけば良いか、そんなテーマで意見交換をさせていただきました。皆さまからの声を反映する中で、只今第5次茅野市総合計画を策定中でございます。今日はその柱となります基本的な考え方についてお話をさせていただき、意見交換ができたと思います。また後段では「玉川地区の魅力とその活かし方」ということで、地域の魅力づくりについても意見交換をしてまいりたいと思います。玉川地区では「ケヤキフェス」ですが、天候にも恵まれまして盛大に開催されました。おめでとうございます。また、ただ今は特産のセロリが提供されています。こういった素材を使ってどう魅力づくりをしていくか、そんな意見交換ができればと思います。本当にお忙しい中のご出席に感謝を申し上げまして挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

企画部長：続きまして、このまちづくり懇談会は、玉川地区コミュニティ運営協議会との共催で実施をしております。それでは玉川地区コミュニティ運営協議会会長、牛山斐雄様よりご挨拶を頂戴したいと思います。

玉川地区コミュニティ運営協議会会長：みなさんこんばんは。今日は足元が悪い中お出でいただいたと思います。本当にありがとうございました。先日行われた「ケヤキフェス」には大勢の方がお出でいただいて、みんな喜んで帰っていただきました。これも玉川で企画して玉川で育てていきたい「ケヤキフェス」ですので、来年も再来年も続いていけるように頑張っていきたいと思います。代わりまして今日は「まちづくり懇談会」という形で皆さんと話し合いをすることでお集まりいただきました。第5次総合計画の基になる話し合いをここでやってい

ただきますけど、玉川に住んでいる私達もいろいろな問題点を持っておりますのでこの機会に、皆さんからお出しいただく時間もとっておりますので、日頃思っていることについてお話していただいて、市長さんからお答をいただくという形をとりますので、是非最後までよろしくお願いいいたします。

－テーマと資料の説明 内容は米沢地区を参照－

市長：それでは皆さんと5つのテーマに沿いまして、またこれ以外でもお気づきになったことがあればお話しさせていただきたいと思えます。これから10年こんなことを基本な考えとしてまちづくりを進めていきたいという総合計画づくりをしております。皆さんが普段お気づきになっていることで考えていることがございましたら、遠慮なくどんなご意見でもかまいません。ご発言をさせていただきたいと思えます。まずは「地域やあらゆる世代で支え合う仕組みづくり」ということで、もっと簡単に言えば先程もお話させていただいたように、区・自治会というものをどう活性化と言いますか、支え合う仕組みにしていくことができるかが一つのポイントだと思っています。反面、入区する方が少なくなって、また役員さんに責任や重荷がかかって役をやる人もいない状況でして、その中で本当にそれをやっていけるのかということもあるわけですが、やはり知恵を出して仕組みを作れるかどうか大きなポイントになってくると思っています。そんなことも含めまして「支え合う仕組みづくり」についてご意見ございましたらどうぞ。どんなご意見でもかまいませんので「こんなことはおかしいかな」と思わずにご発言をしていただければと思えます。

神之原区だと1300戸ですよ。そういう中で「区という単位で」といったら結構大変だろうなと思えます。実際区長さんをやられていて神之原区という単位で「より支え合う仕組み」ということが宿題として出た場合、どんなふうに率直にお思いでしょうか。

市民：神之原区は非常に大きな区ということで、軒数的には1300程あるかと思えますがそのうち入区が820戸ぐらい。常会単位まで落としますと多いところでは110戸ぐらいになるかと思えます。雪かきとか出払いみたいなもの、また区・地区の行事も含めてですが仮に私一人出なくても他の人が出れば行事などが成り立っていくような感じもします。そういうことをまとめるのが苦勞しているところです。その中で各常会長さんをお願いして、いろんな行事に参加していただけるようお願いしているところでもあります。

市長：区というよりも小さい地区ぐらいの大きさだと思います。そうした場合、「公民館を活用して」といっても公民館に大勢の人が毎日来るようだと入りきらないという、そんなハード的な部分はどんなんでしょう。

市民：公民館の利用頻度は、平日はやはり少ないです。サークルさんの公民館利用はあります

けど、普段は7時～7時半ぐらいからの時間で各団体さんの会議とかで。全部の部屋ではありませんけど、だいたい一部屋ぐらいは使われているような気がします。

市長：ありがとうございます。突然振ってすいません。昼間はあまり使われていないということですね。皆さんの方からご発言どうぞ。上北久保の公民館はどんな感じで使われています？

市民：月に1・2回ぐらいの割合で各団体が使っていると思います。頻繁にということはないです。上北久保区もようやく67軒ということで、玉川地区で2番目に小さい区なので、あまり使われてはいないです。一昨日、地区の村祭りをやったのですが250人ほど居るものですから、その人達がみんな集まると入りきれないですけど。本当にぎゅうぎゅうではありました。

市長：ありがとうございます。他にご発言ございますか。実際に公民館を活用していくというときに課題がございます。管理の問題とか、特に子供達の場合に怪我をしたらどうなるのかとか、いろんなことをクリアしていかななくてはいけないと思いますが、茅野市の中でも公民館を活用してのいろんな事例が出ています。そんなことをまとめる中で皆様にも提供していきたいと思っています。ひととおりにしてからご発言してもかまいませんのでよろしくお願いいたします。

「まちの活力の向上を図る仕組みづくり」ということでご説明をさせていただきました。産業振興、雇用の場の確保等の問題でございます。ここにつきましてご意見ございましたらどうぞ。「理科大との連携」という所で何か「こんなことをしたら面白いのではないか」とかご意見ございますか。ちなみに今年はこのまち懇、理科大版というのをやらせていただきます。11月に入ってからですけど、特に茅野に住んで何年か経っている3・4年生を中心に20名ぐらい学生と初めてまち懇をやります。他所から来ている学生もいることでしょう。多分率直な厳しい意見が出るかと思いますが、やらせていただきます。ここの「観光を切り口としたまちづくり」ということにつきまして、茅野は「地域づくり協力隊」の職員も今は13名。都会から来た子もいますし、他所の田舎から来た子もいます。非常に意欲的な職員が茅野市中回りまして、どんなところに魅力があるか発掘をしています。玉川地区でも山田の鋸の製造所にもお伺いしましてどんな体験ツアーができるか、そんな研究もしています。この後の地域の魅力にもありますけど、例えばセロリに絡めた観光素材ができれば、それもまた一つの面白い切り口になるかと思っています。先ほど言いましたように、観光地における観光事業者の観光ではございませんので、例えば農家のおばあちゃんが講師にもなれる、そこでお金も稼げる、夢ではなくそんな環境を作っていきたいと思っています。ですので、この場限りではなく「高齢者の皆さんも稼げる」そんなまちができたらなと思います。

次に教育の部分で「21世紀を生きる力を育む仕組みづくり」ということで、ここで若干教育長にお話をいただきたいと思っています。

教育長：こんばんは。私から少し説明したいと思っています。この間のケヤキフェスはありがとう

ございました。あのような経験の中で保育園の子供、小学生・中学生を本当に育てていただいたと思います。ありがとうございます。今、地域の大人と子供が関わるということが本当になくなって、それをどうするかが課題だったわけですが、それが一番目指す姿が見られたかなと思います。茅野市では幼保小連携教育・小中一貫教育を始めていますが、「幼稚園と小学校だけ」「保育園と小学校だけ」あるいは「小学校と中学校だけ」でやることが一貫教育ではなくて、地域の人に包まれて、囲まれてやっていくことが本当の連携教育だと思います。それからコミュニティスクールということも挙げましたが、あのケヤキフェスの姿の中にコミュニティスクールが目指す幼保小連携・小中一貫教育の姿があったかと思います。小中一貫教育がスタートしたわけですが、数値的には不登校や不適応が減ってきています。それから学力も応用問題を中心に非常に実力あると言うか、安定した力を示してきています。それよりも一番目指すゴールの姿というのが、この間の東部中学校の文化祭ですが、ちょうど私が行ったとき3年生がクラス毎にステージ発表をされていて、あまり時間がなくて全部聴けなかったのですが、お世辞ではなくてこれが1学級の合唱なの？と思うほどのものすごい声があって、すごく育っていると思いました。また東部中学校は外からお客様が来るときに掃除を見せるんですね。とても素晴らしくて、これが一つ私達の目指す方向で、小学校の方もこれを目指して一貫して育ってきているかと思います。先ほど市長さんから説明があったようにICT教育や英語教育を国よりも先行して進めてきています。特に英語教育を玉川小学校は力を入れています。そうしたわけで今年のまち懇からできるだけ学校の先生達も校長先生を中心に来てくれるということで、一緒に話合っていこうと思います。私が抽象的に話をするよりも、校長先生や先生方から説明してもらえればと思います。

玉川小学校長：よろしくお願ひします。今お話のありました英語教育とICT教育の件ですけど、英語教育については今まで5・6年生で週1時間でしたが、茅野市の方では先取りということで本校では水曜日を6時間に5・6年生を週2時間ということでやっています。そして3・4年生は週1時間ということで、今度新しくなる学習指導要領に沿って時数を増やしてやっています。子供達は本当に英語の授業を楽しみにしております。それから茅野市の方で今年度外国語の講師秋先生をお願いして学校にきていただいています。台湾から来ていただいて外国語の指導について長けているわけですけども、1学期にはそれぞれの教室に入っただいて、秋先生の授業を見せていただき、2学期は担任の方で中心に進めながら秋先生にアドバイスをいただいて、担任の方も力をつけていくということで取組を行っています。ICT教育につきましては現在それぞれの教室に大型テレビが無いのですが、それぞれの学校からICTの係を出して現状・希望を聞いて、大型テレビと子供のノートがすぐに映せる実物投影機というものがありますので、それを各教室に入ると子供のノートをみんなが見られるようになるということがあったり、そんなことをお願いして来年度からの方向付けをしております。外国語教育、ICT教育についてはそのように進めているところであります。

玉川小教諭：縄文教育に関してお話ししたいと思います。6年生は昨年12月23日の縄文の日に発表させていただきました。黒曜石・竪穴式住居・装飾品等について、5年生のキャンプで考古館を見学させていただいて興味を持ったものから調べました。それが黒曜石だったり竪穴式住居だったり装飾品だったりしたわけですけど、それらを調べることを通して縄文時代が自分達とは丸っきり別の時代の出来事ではなく、今の時代と繋がっている。生活に使う道具、生活に対する考え方というものが今の自分達のところに繋がっているんだと、調べていくうちに感じていました。黒曜石はその時代は狩りの道具に使われていたわけですけど、今は手術用のメスに使われている、そういうところに驚きを感じていました。その5年生の学習を通して、6年生の国語の学習に「ようこそ、わたしたちの町へ」という単元があります。そこで子供達は茅野市や玉川の先程の観光にも関係しますが、良いところって何だろうと話合ったときに、まっ先に尖石の「縄文のビーナス」「仮面の女神」が挙がってきました。それから「長円寺のみじ」「鋸」が挙がってきました。それを基に子供達は人物を聞いたり調べたりして「ようこそ、わたしたちの町へ」という簡単なパンフレットを作りました。縄文学習というのは、自分達の生活を見直す機会や、今だけではない自分達にも繋がっているということを感じながら学習することができる子供達に繋がっているのではないかと感じています。

東部中学校長：中学校の方は小中一貫について話をしたいと思います。保護者の方には去年からいろいろな場面で私の口から小中一貫校になるという話をしてきましたので、何となく頭では分かっていたと思います。今年の4月に見た目で一番変わったのが校名板に「小中一貫校東部中学校」と玄関に飾られたので見た目のインパクトがありました。子供達の具体的な様子については1学年主任が来ていますのでお話をさせていただきます。

東部中学校教諭：地域の皆様にはお世話になって、素敵なかわいい子供達をあずかせていただいております。小中一貫、縄文科に関わってお話をさせていただきます。縄文科では今年1年生は宿泊学習に行きまして、縄文を学ぼうと子供達はとても意識をしてきました。尖石考古館は基本的に熱心にしていましたが、カレーづくりにしても「縄文人って本当に不便なことをみんなでこうやって協力してやっていたのかな」というようなことを言っていたり、そこまで感じるんだと驚いてしまうほど繋げて考えていたりしました。カレー作り、土の鈴づくりの体験もさせていただいたのですが、そこまでに学んだ部分も繋げて「縄文人がこういうものを作って大事にしていたんだな」とか、「心のよりどころにしていたんだな」とか「僕たちも大事にしていきたいな」とかそんな言葉も聞かれました。そんなことを通して今の自分達の生活で「協力って大事だな」とか、そんなことに繋げていこうと考えています。小中一貫に関しては、小学校の入学式に中学生からお祝のメッセージを送らせていただいたりとか、話せばいろいろとあるのですが、中学校から授業をさせていただいたりしています。「中学校って怖いな」というイメージよりも「楽しそうだな」というふうなイメージを持って入学してくれている様子もあります。まだまだ繋がってという所に関してはもっとこうした方が良いというところもあ

りますので何とか実行して、お子さん達がそんなに不安ではないと思いますけど、繋がりを持ちを持って入学してもらえるように工夫をしていきたいと思います。

東部中学校長：今の話に付け加えると茅野市の小中一貫教育の場合、建物が離れています。逆にそれが特徴になっていて、子供達が交流できるようにということで11月を目途に全小中学校に「テレビ電話会議システム」を設けます。実際に豊平小学校と東部中学校の間にやってみたのですが、子供同士がテレビを通じて一緒に授業をやったり会議をやったり、その上で実際に顔を合わせると。ICT教育のもう一つが来年度タブレットを導入します。お金のことがあり1人1台とはとてもまだ先ですけど、可能な限りタブレットを導入してICT教育を本格的に進めていきたいと思います。

市長：先生方、ありがとうございました。先生の話もお聞きをして「生きる力を育む仕組みづくり」について何かお感じになったことございますか。

市民：いろいろと言って申し訳ないのですが、玉川の文化と教育を語る会というものがあれば良いですけどないですよ。一つは市長さんに「ゆいわーく」を造っていただいて本当にありがたくて心からお礼を申し上げます。次にこの間のケヤキフェスですけど先生方、生徒指導にありがとうございました。それでちょっと思うのですが、あの会に一般の先生方がどれくらい参加していたかということです。先生方も非常に一生懸命にやっていただいてお忙しいこともわかっておりますけど、ああいう所で一般の先生がどのくらい見ていただいたのか疑問に思います。もう一つまちづくり懇談会の資料にもありますが、各地区で独特な文化活動をやっているわけですよ。そういうところに小中学校の先生方が具体的に行って見ていただいているかどうか。例えば菊沢さんの二百十日祭、ぼくは穴山に住んでいますけどいつも菊沢さんの二百十日祭は見学させていただいています。菊沢さんの伝統は俳句、これも続いていましてあの文化は大したものですね。そしてでかいのぼりを作って二百十日ですね。本当に良いですから見ていただくと目が違うかと思います。その他各地域に文化的なものがありますので、校長先生だけでなく普通の先生方も参加していただきたい。先ほど区長さんが言われたように、各地域のお年寄り方が各地域のことを話しをする機会を小中学校で作っていただいて。この間も重要な発表をしていただいたので、そういうところも見ていただいて地域に根付くためにも、是非とも小中学校の先生方に見ていただいて教育にあたっていただきたいです。そんなことが一般の先生に役立つと思います。

市長：前段のケヤキフェスでの先生の方がどれぐらいの出席だったかは、校長先生分かりますか。

東部中学校長：中学校の方は私を含めて5名です。それ以前に準備の段階で関わっている先生

となりますともっと多くなるかと思えますけど。中学校の事情をいいますと新人戦の公式戦が本校で行われていたり、ということでちょっと厳しいところがあります。

玉川小学校長：小学校は私を含めて当日は会場の準備もありましたので4名の参加です。その前にPTAの関係の職員は小学校で出したブースがPTA中心にやっていたので、作るのに関わりました。

教育長：人数が少ないことは本当に事実です。私の方から皆さんにお願いしたいことがあるのですが、学校の教職員がもう少し時間とゆとりがあれば、地域に出ていると思います。そのためにコミュニティスクールをやって何とか教育を、学校を助けていただきたいという考えです。実際テレビでも問題になっていますが、小学校の月あたりの残業時間が県下では少ない方なんですけど50数時間、中学校の方は部活がありますので下手すると70時間。そうした中で私の立場とすれば、校長先生に気合いを入れて職員に皆出てくるようにしろ、とはとても言えません。とにかく職員がもっと地域に出て行かれるように、私達も頑張るけれども今進めているコミュニティスクールの中で、もう一度地域で出ていけるゆとりを取り戻していきたいと考えています。本来みんな地域に行きたいのだけれども、自分が現職のときを考えると入っていけない、そんな弱い気持ちがありました。

市長：ここにありますがけれども、茅野市はいろんな取組をしています。教育指導要領にないこともやっています。そのことが子供達の「やさしさ・たくましさ」に繋がると思って先生方も頑張ってくれているものですから、正直茅野に赴任してくると先生は大変だと思っています。毎年4月に歓迎の式をやるのですが、その時もしっかりと「茅野市に来ると、ごしたいぞ」と言います。いろんな経験もするし、良い先生になるよという話をさせていただいています。そんな状況の中で、教育長のように地域の皆さんもバックアップ・サポートをお願いしたいと思います。この英語教育なんですけど、先ほどありました「秋先生」という台湾の先生に来ていただいています。是非一回、いつ来るかを聞いて授業も見に行ってください。「こういう英語の教え方をしなくては駄目なんだ」ということが目から鱗で分かると思います。私達が中学・高校、私は大学までやってきましたけど、あの英語に費やした何百時間は何だったんだと言うぐらい。子供達に興味を持たせて教えるというテクニックを私も勉強させていただきました。是非時間がありましたら校長先生にいつ秋先生が来るか聞いて覗いてみていただきたいと思います。当然小学生は英語をしゃべれない。ですけど、想いが伝わってくるもので、つい「Yes」とやっているんですね。非常に参考になっております。日本の先生がなかなか教えられないパワーを持っているなと思いました。

4点目の「安全・安心・豊かな暮らしを支える社会基盤づくり」と5点目の「あらゆる主体による協働のまちづくりに向けた仕組みづくり」の両方におきまして思っていること等ございましたら、どうぞご発言をお願いします。

市民：冒頭の「時代の背景」のところで「生産年齢人口が減少している」とデータからありますけど、我が家を見ると正にこのとおりで、3人子供がいるのですが上の2人は茅野市を出てしましまして、理由は上の子は「魅力あるまち」を求めて安曇野市に住んでいます。2番目は「魅力ある仕事」を求めて東京に住んでいます。5番目の「あらゆる主体による協働のまちづくり」ということで、我が家の場合は子供達の理由を考えると企業や商店が一つキーポイントでして「魅力ある仕事、魅力あるまち」ではない、と判断をしたんだと思います。そういう働き盛りの20代・30代の人達の意見というのはこの中にどのように反映されているのか、またこれからどういうふうにしていこうと考えていらっしゃるのか。理科大との協働によるまちづくりというのもありましたけれども、それも一つだと思いますが、そこが一番のキーポイントじゃないかなと思っています。生産年齢が減少してしまうと、生活基盤がなかなか留まってしまう。子之神区で言いますと外から入ってくる人が増えて、新しい人口は増えているんですけど、それはそれで良いのですが茅野市全体で見ると人口は減っていますので、そこに歯止めをかけることが一番のキーポイントだと思います。この全体の計画を見ていて、そのへんが少し弱いかなと感じました。そのへんをお聞きしたいなと思います。

市長：ありがとうございます。おっしゃるように「魅力あるまち」を求めて安曇野市へということ、その逆もきっとあるんだろうなと思います。「魅力あるまち」はいくつもあると思いますけど特に若者となれば、一つは自分に合った仕事があるかということが大きな課題かと思えます。もう少し若い世代になると、遊ぶところがないとか良い店がないとか、そういう意見も聞いています。ただ商業施設というのは行政でストレートに手が出せない部分もございまして、非常に苦慮しているところですけど、それと交通の便が悪い。この3つぐらいがアンケートからすぐ出てくる言葉でございまして、理科大生をこれから「茅野のまちって良いな」と思わせるには商業施設をどうするか、良い意味で遊ぶ環境、交通の便、これは遊びにも関わってくると思います。そこのところをしっかりと手当てをしていかななくてはいけないなというところですけど、実はこれが大きい課題です。大きい課題ですけども行政も真剣に取り組んでいかななくてはいけないと思っています。働く場所、雇用の創出ということになりますと、企業誘致とか考えていかななくてはいけないですけど、これは第4次のおかげから茅野市は既存企業の育成を図っていくということを主において取り組んでまいりました。これからも基本的な方向はそんな方向で行くだろうと思いますけれども、産業振興ビジョンを第5次に向けて検討しております。こんなことで雇用の場の確保をどう図っていくかということになるかと。雇用の場の確保ですけども企業誘致をするときも、企業だけ来てもらってもそこに働き手がない、という非常に厳しい現実もございまして、何か月か前にディスコさんという会社が福沢工業団地に500名の採用を計画していると。大概ありがたいことなんですけど、500名を確保するということある意味既存の企業からの引き抜きということも起こりうるんですよ。そうなる手放しで喜んでばかりもいられない。そういうときに来る企業さんには「従業員も連れてきてくれ」とい



うような働きかけもしなければいけないし、茅野ではないですけれども現にそういった形で移転して来てくれた企業もごぞいます。そういったことも含めて、今の時代ただ単純にこれをやれば良いということが見つかり難いですが、そういったことを総合的に取り組んでいくことが必要かと思っています。おっしゃることは良く分かります。もう一つ私達のお願いなんですけど、「若い者がいない、何とかしろ」と聞くわけなんですけど、今おっしゃったように息子が2人いたけど茅野から出て行った、そういった家庭がいっぱいあると思います。確かにどういった仕事をするかでどこに住むかということも決まってくるわけですが、「そんなこと言わなくても諏訪圏にだって良い会社があるじゃないか」と、親として子供達を縛るということではなくて、是非アプローチもして欲しいなと思います。息子がやりたいということに「がんばれ」ということも大事ですけれども、「そんなこと言わなくても、こっちにもあるじゃないか」と。そこまで言うかどうかはあれですけれども、やはり子供に「親を見ろ」ぐらい言っても良いのかと。そういったこともしていけないと、この地域全体で若者に頑張ってもらおうという環境も簡単にはできていかないのかなと思っています。是非そんなこともご理解いただければと思います。

それでは2番目のテーマ「地域の魅力」をどうやって活かしていくか、それを活かしてこんなまちにしたらいいな、そんな話題で意見交換したいと思います。第5次総に關係しての所に戻ってもらってもかまいませんので、そんな形で意見交換を進めてまいりたいと思いますのでよろしくお願いします。

玉川地区コミュニティセンター所長：それでは「地域の魅力とその活かし方」についての資料についてご説明いたします。こちらについてはコミュニティ運営協議会の正・副会長さんと相談しながら作らせていただきましてこの場に出しております。まだまだ玉川には知られざる地域の魅力がたくさんあるかと思っていますけど、資料の1～17の中の3、6、7を除いた全てが先ほどからお話に上がっております「ケヤキフェス」に集結しました。この「ケヤキフェス」の目的なんですけど、皆さんお手元にパンフレットが届いたかと思いますが「玉川の魅力再発見！楽しさいっぱいの玉川ケヤキフェス」ということで、言ってみれば玉川の地域の魅力をここに集結してみんなで楽しんじゃおうというものでした。ここにおいでの方、多くの皆さんに関わっていただきまして本当にありがとうございました。ポスター・チラシにもありますが、玉川の魅力を皆さんで出し合って再発見することによって、玉川ってこんなに良い所だったと。そういう地域の魅力を再発見することによって、地域に対する愛着心がわいてきて、皆さん「玉川をもっと良くしていこうよ」ということに繋がればな、ということで「みんながかがやく！みんながつながる！」というキャッチフレーズを付けさせていただきました。この「かがやく」には、人もそうですし地域にもこんな魅力があって輝いているんだよ、というところを皆さんに知っていただいで楽しんでいただく。そうやって楽しみに集まっていたいた皆さんが繋がってもらえればということで「ケヤキフェス」を実施させていただきました。「地域の魅力とその活かし方」の端的な例として、玉川としては「ケヤキフェス」を大々的に

開催をさせていただきました。先ほどのバックホーですが子供に乗ってもらって楽しんでもらったものなんですけど、あれは玉川の丸山建設さんに持ってきていただいて。高所作業車はココロスさん、事業所にも出店していただいてギターとかはダイナ楽器さん、小池ドライさんには出ていただいてシミ抜きを実演していただいたりとか。いろんな魅力が本当に散りばめられた「ケヤキフェス」だったかなと思います。

市長：ありがとうございます。本当に私もこの「ケヤキフェス」は良いなと。何年も続いて大きく育っていけば素晴らしいまちづくりになると感じています。今回この「地域の魅力とその活かし方」をテーマに設定した想いは、茅野市の魅力を発信していこうと今取り組んでいます。でもベースはその地区にある魅力になるわけですし、そのことを地域の皆さんがさらに意識をしていただくことで地域の活性化に繋がっていくかなと感じています。そんなことで今回「地域の魅力とその活かし方」の意見交換ができればと思います。先ほどもお話いただきましたけど、それぞれの地区ばかりでなくて集落にも様々な魅力があると思います。何なりと忌憚らないご意見をお願いします。

このケヤキフェスは本当に良いですね。玉川小の校章も樺ですしケヤキ並木があって、イメージがパッとわく取組だと思えます。ここでケヤキフェスをとおして、単なる振舞いだけでなく営業もされているのが良いかと思えます。やはり振舞いだけだと限られてしまいますが、物販をすることでそこで稼げるので、いろんな参加者も増えていくだろうし。買うことも楽しみの一つだと思います。そのことも含めて自立をしていける取組じゃないかなと感じています。先ほども言いましたが、子供も楽しそうに参加していましたし、年配の方も楽しそうに参加してくれていました。非常に良いなと思えました。

セロリのプロジェクトはコミュニティでやってくれていましたが、今どんな状況ですか。

玉川地区コミュニティセンター所長：「セルリ」ということで最初に挙げさせていただきましたけど、玉川は元々セルリ発祥の地だということ、味がそこらのセロリと比べてもらっては困るということでPRをさせていただきました。玉川の皆さんが意外とそのことを知らないということで運協の方で始めさせていただいて、この場でもPRさせていただいて、地元こんなに良いものがあるんだと知っていただければと思います。ケヤキフェスでもちょっと早かったんですけどセルリはいつも出してもらっています。これから新そば祭ですとか地域以外でもPRさせていただきたいと思います。

玉川地区コミュニティ運営協議会会長：長円寺のお客さんなんですけど、昨日もちょっと見たんですけど、観光バスが来ていて非常に有名になりまして、そういう所でセルリを売るという。ちょうど時期が合っていそうなので、是非皆さんもお出かけいただいて美味しいセルリを求めてはいかがでしょうか。

市長：良いですね。長円寺さんの駐車場だと大型バスは入りきらないでしょう。

市民：郵便局の駐車場にバスを止めて、降ろしてからバスを移動してまた迎えに来るようなやり方をしています、何台も来るものですから混雑をしておりますけれども、地域はとても喜んでおります。

市長：長円寺さんの拝観料は無料だよ。

市民：長円寺さんではセルリを売るだけでなくパンも売っております。玉川の商業会繋がりで多くの商店が出していただいて。是非お出かけいただきたいことと、そういうことが観光のまちづくりに繋がっていると思います。

市長：そうですね。拝観料はいらなくても何か一つは買って行って。セロリでもいいパンでもいいし饅頭でもいいし。そこらへんの嫌味にならない仕掛けができれば、そのこと自体も話題になると思うんですね、例えば輪島の朝市みたいな感じで。ただそのキャラを出すにはおばあちゃんだね。じいちゃんじゃなくて、かわいいおばあちゃんが売ってたらきっと売れるかなと思うし。そういうので稼ぎにしていけることも大事なかなと思いますね。

それでは地域の課題もございますし、またこちらに立ち返ってもらってもかまいませんので進めさせていただきたいと思います。それでは地域課題、市の課題等について皆さんの方のご意見、お考え等ございましたらご発言をお願いします。

市民：皆さんこんばんは。今晚のまちづくり懇談会において小泉区における太陽光発電の建設計画について区の住民を代表して意見を述べさせていただく機会ができましたことを改めて感謝申し上げます。課題提起と申しますか、端的に申しますと小泉区の住宅地において、玉川地区における住宅地への太陽光発電所建設には反対ですと言うことで、ここで課題提起をさせていただきます。小泉区の現状ですが、小泉区のほぼ中心の北東側の農地に、住宅に隣接した太陽光発電所の建設が計画されておりまして、手続き等が既に進んでおります。計画では約1500平米の土地に発電容量はパネル484枚、160kWの規模となっております。既に経済産業省に対しては設備認定申請の届が済んでいて設備認定待ちの状況です。小泉区の3役には8月29日に説明があり、小泉区の住民に対する住民説明会が9月28日に行われております。ということで、住民説明会がいろんな手続き上の最後になっております。つまり住民説明会が形式的なものになっており、形骸化しております。茅野市においても「再生可能エネルギー発電設備の設置等に係るガイドライン」にも重大な問題があつて「環境と調和がとれたもので長期的な地域住民との良き関係づくり」を無視しているなどのことから、太陽光パネル設置とか太陽光発電施設の設置の説明会ということで、計画なり近隣住民の方に対する理解を得るとか、丁寧な説明で合意を得るような説明会ではありませんでした。ですから小泉区の住民としてはこの建

設には反対ということ、部会の方も近隣の区民の皆さんとの会合でも決議しました。これはお願いというか要望になりますけれども、市としては土地利用上、不適格として建設差し止めなり中止へと課題解決に動いていただくようお願い申し上げます。このまちづくり懇談会で課題提起させていただくのは、小泉区の問題だけでなく、玉川地区全体の問題になるからと思うからです。一旦このような方式・手続きがとおって建設が着工され発電が始まれば、この玉川地区の他の区・住宅地においても家の近くに多くの太陽光発電所の建設がこれから加速されることになるかと推測されるからです。特にこの玉川地区には太陽光発電に移籍した土地もたくさんあるからです。今、課題解決に動かないと将来に禍根を残すことは必至です。子供達に美しい景観と健全な生活環境を残せなくなります。もう少し詳しく説明させてください。玉川の絆プランにおいても、安心して楽しく暮らせる玉川を目指すことにしております。先ほど市の方からも説明がありましたけれども、今後の10年の中で暮らしやすく住み心地の良い環境ということにも繋がってくると思います。この絆プランの中にも子育て部会では「安心して産み育てられる玉川づくり、子供達が帰ってきたくなる玉川づくり」を目標に活動しております。そのためには帰ってきたくなる美しい景観と健全な生活環境を守って残していくことが大事と私は考えます。今、住宅地への太陽光発電所建設が進んでいけば、玉川の美しい地区としての価値が半減どころか更に減少してしまうのではという危機感を持っているからです。ここで小泉区の皆さんの意見をご紹介させていただきます。区民の皆さんはクリーンなエネルギーを適切な場所で後々のメンテナンスも考えて増えていくことには賛成されています。ソーラーを付けて駄目ということではなく、公共の建物・企業・家屋・一般家庭の屋根とか、環境・景観を破壊しない場所、あるいは自家障壁用に私有地等への設置をすれば良いのではないかと。この土地ではなくて人と環境にやさしくできる建設適地に建設すべきです。また再生可能エネルギーの活用はこれからの将来にとっても不可欠です。しかしながら環境・景観を壊し、人々に苦痛と犠牲を強いる活用の仕方は間違っているのではないかと。特にこうした太陽光発電は自然と人にやさしい施設であるべきではないかと。特にやさしさということには子供にとっては非常に大事なことです。皆さんが全部反対しているわけではありません。ただ住宅地に隣接して太陽光発電所が建設されるということは、近隣の方にとってみれば、玄関を開けたら太陽光パネルが広がっている姿をこれから20年以上も毎日見ていかななくてはいけない精神的苦痛は非常に大きいものです。ですからそういった田園風景に恵まれた健全な住宅環境を破壊するような隣地境界ギリギリまでフェンスに囲まれ、低い架台に設置された太陽光発電パネルが迫ってくるようなものを毎日目の当たりにするというのは、その精神的苦痛、災害時の安全性、子供の安全等を常に心配して暮らす不安があります。なぜ玉川の景観が好きで、この地に住んでいる人達の目の前に太陽光発電所を作るのでしょうか。常識ある地権者、保有者はここには建設することは考えられている意見の住民もいらっしゃいます。景観・環境というのは公共的な価値を持っております。太陽光発電所により住民の資産価値が減少することは間違いありません。ですから発電所が建設されれば近隣の土地の価格は下落します。特に高齢化し、ここを離れたくても土地が売れなければ行き場もなくなります。太陽光発電所がこれだけの規模のものがあ

れば、そこの近くの土地を買う人が出てくるでしょうか。あるいは玉川地区の教育環境を気に入ってこちらに来られる方が太陽光発電所ができたことで、その近くの土地を買われる方がいらっしゃるでしょうか。このような観点から小泉区としては住宅地への太陽光発電の建設には反対しています。今、小泉区の住民の方達の代表で市への要望書を作成しているところですが、また市長の方にはお届に伺いますのでよろしく申し上げます。今日は小泉区の住民の方も大勢いらしてるので、何か補足ありましたらよろしく申し上げます。

市民：ここでお話をしようなんて大それた考えでは来ていなかったんですけど、今区長さんから切なお願いということで説明がありましたけど、隣接する住民としてなぜ反対なのかということをお時間いただいて、よろしくお願ひしたいと思います。まずこの話がありまして説明会に行きました。人為的なもの・環境的なもの・音・妨害・水害こういったものへの影響は何にもありませんという説明でした。こちらからの質問も全て問題なしという説明がありました。しかしながら、我々はそんな経験がないものですから、本当に大丈夫かという不安があります。なぜここにそういったものを作るかという理由がですね、従業員の年金・福祉のためだという説明でした。従業員が何人いるかというところと6人です。そういった会社は家族経営といいますか、そういうことでして自分の家のために人の嫌がることをやるのかと、感情的にも賛成はできないというのが理由でございます。それと精神論になりますけど、先ほど説明がありましたように玄関開けたらパネルだ、というような近間にそんなものがあってこれは個人の問題ですけど、そんなところに暮らしたくないという方もいらっしゃいます。感じ方の問題ですので、何の問題もないよという方もいるかもしれませんが、そういうことで我々としては会社の社長さん一家のために犠牲になって、この事業に賛成するなんてことはできないということで反対の狼煙を上げております。市長さんの方にもそういう実情を分かっていたいて「切に、切に、切に」お願ひしたいということで終わりたいと思います。

市長：小泉区さんの案件は私の方にも報告は入ってきております。ご案内のように茅野市はガイドラインを設けていまして、また景観計画の中にも入れてきちんとした対応をするように指導しているところでございます。おっしゃるように誰しも太陽光発電そのものを駄目だと言う人はいないと私も理解しています。ただどういう所にどういうふう設置していけば良いのか、節度ある取組を進めているところでございます。まずは茅野の立場をご理解いただきたいと思います。この案件は、いろんなところで起きています。状況はそれぞれ違うわけですけど、住宅地の真ん中にできるからとか、景観が駄目だからとか、悪い基礎で土が崩れて災害的にも駄目だからとか、いろんな案件がありまして、正直国のせいにするわけではないですけど太陽光発電を導入するときの国の制度設計がきちんとできないままにいつてしまった。原発の事故があったというのがありますけど、これは茅野市ばかりでなくてどの市町村も似たような課題を抱えて対処に苦しんでいるところでございます。手続き的なことを言いますと、ここに設置すれば絶対災害が起きる、そのような案件であればノーと言えますけど、そうでないと制度的に行

政の方からノーとは言えないんですよね、残念なことに。だからこそ大事なのは地域の皆さん、住民の皆さんの意思が大事になってくるかなということで、区を挙げて反対されて撤退したのも最近2、3ございます。またある地区では可能性があるところの土地を共同で購入して保全地区にしようという動きがあるところもございます。対応はそれぞれですけど、まずは行政としても地元としっかり話をしろということ。これはきちんと伝えていきますし、これからも指導してまいります。その中で小泉さんの方できちんと反対だということを示していただくことも大事になってくると思います。今、そういう動きがあるということは承知しておりますので、その状況も含めて対処してまいりたいと思います。その要望書はいつごろでしょうか。

市民：来週中にはと思っています。

市長：ということで、今日のところはよろしいでしょうか。

市民：私も20数年前からこちらでお世話になった者ですけど、20年近くになると思います。グリーンラインの玉川小学校入り口という信号機があります。御柱街道との交差点なんですが、その南側に歩道がなくて、子供達が昔から非常に危険な思いで学校に通っています。最初にお願ひしたのが、その西側が細長い土地ですけど畑があって、そちらに歩道を作っていただけないかというお話が最初に出たのが20年ほど前だと思うのですが、私の知っている限りではその時地主さんと話が上手くいかなかったよということで、それから何度も話題にはあがるのですが一向に進展しないと。最近あそこをスクランブルにさせていただいたので子供達も少しは安心したのかなと思いますけど、あの信号機のところは毎朝・毎夕の渋滞がすごいところで、何とかしたいと思っはいるんですけど。要望も継続ということになっはいるようですが何か動きがあるのか、これからどういった方向で動いていただけるのか分かればありがたいかなと思いますので、よろしくお願ひします。

市長：私が市長になった頃の当時から毎年のようにその話題は聞いております。市の方としても何とかできないかと、職員の方もいろんな伝手をたどってその地権者とも話をしたりしているのですが、ご案内のようにご了解を得られずに現在まできているのが実情です。その土地の代わりに代替地を提供することでは駄目ですか？とか提案はさせていただいたわけですけど、県道ですので縦道は県としても環境さえ整えば待ったなしに右折レーンを設置して、という改良工事はしたいということで、もう絵はできているんですね。なんせそのことが解決しない中で、市としても何とかならないかなという状況が現実です。こういう案件は地元の方をとおして上手く話をしてもらえたらどうかとか、結構そんなことになるのですが、返って地元の人が行くと駄目だとかそういう状況もございまして、目処がたっている状況ではありませんけど、県も市もその環境が整えば即改良に入りたいという体制でいることはご理解いただきたいと思ひます。

市民：ありがとうございました。

市長：今の通学路の問題ですけど、20何年間そういう状況が続いているんですけど、通学路を変えてみるとか、あそこをどのくらいの子供達が動いているのかとか、その辺りの実態把握はされていると思うのですが、どうなんでしょうか。当然あれば良いのですが、それが全然進んでいないということで、これからまた十何年間地権者が折れるまで待つてるしか他に手段がないのか、どうなんでしょうか。他に方法はないのでしょうか。

玉川小学校長：学校を出て信号をまっすぐ行く子供達については、信号までも周りは田んぼがあつたり、その先もまっすぐ行く子供達はあの道を通らざるを得ない。通学路を変えらるとなり、適切な通学路があるかどうかという、遠回りになってしまつたりということもあります。子供達も危険なところであり、信号の先には横断歩道もあるのですが、やはり車がたくさん通つていて接触するような事故の報告もありますので、歩道ができればと常々思つてはいるわけです。通学路をこれから変えていくということはまだ検討はしてありません。

市長：私もあそこを朝、子供達がたくさん通るということはよく承知をしています。一部出っ張つていたコンクリートはカットしてもらえて、少しは良くなつたかなと思つています。また校長先生にあそこを何名ぐらい通つているか把握していただいて、できることは何かを考えていかななくてはいけないかなと思つています。

他にどうぞ。全体をとおしてでもかまいません。ご発言をお願いいたします。

よろしいでしょうか。まだ10分ほどありますけど、無理して引つ張ることもないかと思つています。今日は盛り沢山のテーマで中途半端になつてしまつた部分もあるかなと反省をしておりますけど、いろんな良い意見を聞かせていただきました。また地域の課題につきましては現状の報告等もさせていただく中で対応してまいりたいと思つていますので、よろしくをお願いいたします。いずれにしましても、玉川の「ケヤキフェス」は本当に良い取組だと思つていますので、是非地域を挙げて育てていただきたいと思つています。去年のまち懇で「センター長をもう1年置いといてくれ」という要望がありまして、それに応えさせていただきました。来年はどうなるかはここではお答できないので、センター長が代つたとしても、玉川地区の団結と言いますか、友情と連帯は深めていただきたいと思つています。今日は本当にお忙しいところありがとうございました。

企画部長：それではまちづくり懇談会を閉じさせていただきます。お帰りの際はアンケートのご協力をよろしくをお願いいたします。本日はありがとうございました。